

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

九州大学大学院臨床・腫瘍外科（第1外科）での国内研修を終えて

和歌山県立医科大学外科学第2講座

竹内 昭博

日本臨床外科学会国内外科研修制度に応募させていただき、令和7年1月27日から2月7日までの2週間、九州大学大学院臨床・腫瘍外科（第1外科）において国内研修をさせていただきました。大変貴重な2週間を過ごすことができ、研修をお許しいただきました中村雅史教授、研究・臨床にご多忙の中にもかかわらず多くのことを教えていただきました。肝胆膵チームの先生方をはじめとする九州大学大学院臨床・腫瘍外科の医局員の先生方に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私は、2009年に宮崎大学医学部を卒業し、卒後臨床研修を終え外科学第2講座に入局しました。関連病院での研修、上部消化管グループで腹腔鏡手術の研鑽を積ませていただいた後、現在では肝胆膵外科チームの一員として、高難度肝胆膵手術の修練を積ませていただいております。今回、私が九州大学大学院臨床・腫瘍外科肝胆膵チームでの研修を希望した理由は、有名な膵癌のhigh volume centerであり、全国的な臨床試験も主導されており、それらに関連した基礎研究においても素晴らしい成果を上げられている、臨床・研究において非常に充実した世界有数の施設であるからです。また、非常に早い時期から膵臓に対する低侵襲手術を積極的に導入され、日本のロボット膵臓手術の発展に欠かせない低侵襲膵切除のパイオニアであり、その素晴らしい実績のある外科診療の実際を体感したいという思いがあったからです。

九州大学大学院臨床・腫瘍外科は、肝胆膵チームの他に、上・下部消化管チーム、膵腎移植チーム、呼吸器外科チーム、乳腺外科チームなど豊富なスタッフの方が在籍され、週3日ある手術日には並列で多くの手術が実施されておりました。カンファレンスにおいてはそれだけの症例に対して効率よく問題点を挙げられており、また術後カンファレンスは手術翌朝にもかかわらず、手術スケッチおよびビデオ編集された動画を用いて手術の検討が行われ医局員全員に情報共有されており、レベルの高い手術成績を裏付ける先生方の努力の一端をみせていただきました。

今回の研修では、BR-A膵癌症例およびconversion症例に対する膵頭十二指腸切除+門脈合併切除から、低侵襲手術（ロボット支援下膵切除・腹腔鏡下膵体尾部切除）とたくさんの膵切除を経験させていただきました。また、中村雅史教授の膵頭十二指腸切除術に助手として参加させていただき貴重な機会を得ることができました。さらに、腹腔鏡手術にも前立ちや、ロボット支援下膵頭十二指腸切除術も見学させていただき機会を得る中で、oncological benefitを意識した過不足のない精緻な郭清や、丁寧かつ迅速で安定した再建は言うに及ばず、尾側膵癌に対するcranial-to-caudal approachやpancreas-preserving distal pancreatectomyなど、それらの手術手技や術式の定型化が、既にこれまでpublishされた論文から裏付けられていることも教えていただき、深く感銘をうけました。Warshaw手術も初めて見学させていただき、機能温存と患者の予後を強く意識された治療方針は、私にとっては貴重な経験でありました。また、低侵襲手術に対して手術セッティングや体位などすべて定型化されており、適切な視野展開やエネルギーデバイスの選択、安全なロボット手術の教育体制など、参考にさせていただくべきところばかりでした。

その他にも膵臓研究チームの抄読会への参加や、ラボ見学をさせていただき、ERCP研究チームのERCPも見学させていただきました。大学院生の抄読会もレベルが高く、施設の研究環境も非常に充実

されており、蓄積されてきたこれまでの研究の歴史を感じ、常に high impact の研究を継続されている環境を体験できました。教室として、基礎研究も臨床研究も精力的にこなしておられる医局員の姿を見て、academic surgeon を育成するとはこういうことを言うんだと、若手外科医の私としては身の引き締まる思いでした。

短い期間でしたが、九州大学大学院臨床・腫瘍外科の日常臨床をともに見学することができ、本当に有意義な研修でした。医局の先生方はグループ間の分け隔てなく、協力して勤務される姿が見てとることができ、理想的な職場環境だと感じました。また、仲田興平准教授をはじめ肝胆膵チームの先生、レジデントの先生とも、2 週間の間、臨床・研究にご多忙の中、特に密に交流させていただき、九州大学大学院臨床・腫瘍外科での研修は、私の今後の外科医としての生き方を考えるうえで、かけがえのない大きな財産となりました。

九州大学大学院臨床・腫瘍外科の先生方に深謝致しますとともに、このような貴重な機会を与えていただきました日本臨床外科学会会長、日本臨床外科学会国内研修委員会の先生方、ご推薦をいただきました和歌山県立医科大学外科学第 2 講座の川井学教授、ご支援いただきました和歌山県立医科大学の教室員の先生方に感謝し、研修報告とさせていただきます。



中村雅史教授（左から 3 番目）、肝胆膵チームの先生方と（著者は左から 4 番目）